



早川町の集落

キラリ 光るまち

学生が関わる まちづくり



山梨県
早川町



NPO法人
日本上流文化圏研究所
研究員 柴田 彩子

◆ 山梨県早川町の概要と NPO法人日本上流文化圏研究所

早川町は山梨県の南西部にある、南アルプスの麓の町である。面積370km²の96%を森林が占め、1500人が約40の小さい集落に散らばって住んでいる。高齢化率も約50%と過疎高齢化の進展も著しい。

NPO法人日本上流文化圏研究所(以下、研究所)は、早川町の長期計画に位置づけられたまちづくりの組織である。町からの事業を受託するなど、行政と連携しながら事業を推進している。平成8年設立で、平成18年にはNPO法人格を取得した。

研究所では、4名の事務局長を中心に、町内外のボランティアな力に支えられて事業を推進している。大学の教師陣、シンクタンクやコンサルタントのスタッフ、全国のまちづくり活動家などとのネットワークがあり、中でも特筆すべきは大学生との繋がりにある。設立当初からこれまで、研究所に関わった学生は100名以上に上る。(筆者もその1人である。)

研究所の事業で、学生が関わるものをいくつか紹介したい。

◆ 早川町における 地域づくりインターン生の受け入れ

「地域づくりインターン」は、まちづくりや農山村生活に興味のある学生を、夏休みに2週間から1ヶ月程度地域へ送り込み、まちづくりの現場を体験させるといふ取り組みで、早川町では平成13年から受け入れている。

早川町や研究所には、それまでも学生が来ていたが、所属する大学が限られていた。そこで、学生とのネットワークを広げるために様々な大学から学生が集まることが見込まれる「地域づくりインターン」事業に参加したのである。

これまで毎年2〜5人の学生を受け入れ、主に観光施設にてこ入れを中心に活動してきた。対象となる観光施設で従業員と共に働き、現場の視点で施設の魅力を知り、また課題を見つけ出す。それらの課題について、関係者への聞き取りなどの調査を行い、検討する。最終的には施設



観光施設のお手伝いをする地域づくりインターン生

最終的には施設

の従業員、運営母体の職員、地域住民などを前に、自分たちの考えを提案し、提案が受け入れられれば、提案内容を実現するお手伝いまで行う。農山村を体験するにとどまらない、まさしく「地域づくり」に対する「インターン（＝研修）」である。

◆「地域づくりインターン」以外の
学生の活動

二〇〇〇人のホームページプロジェクトは、早川町民全員を取材しホームページ



町民の前に研究報告する学生研究員

ジ上で顔写真とともに紹介するという取り組みで、学生が取材を担当している。町民一人ひとりと同じ向き合い、その半生や山に生きる知恵や技、町への想いなどを聞けるこの活動は、間口が広く、参加する学生も多い。

「研究活動支援事業」は、早川町を研究対象とする大学生・大学院生を研究所の学生研究員と位置づけ、調査研究を支援・奨励し、また成果をストックし最終的には施策への還元を目指すものである。研究所開所時から続く事業で、7大学9学部・研究科の18人の学生が、23本の論文をまとめた。

インターン事業、二〇〇〇人のHP、研究活動支援など様々な関わり方があるので、いずれかの活動で関わり始めた学生は、違う活動にも参加しながら地域との関わりを継続させている。

◆おわりに

町民に対して、学生たちのまちづくりはどんな影響を与えているのか。

学生たちは、地域への愛着を持ち、利害にとらわれることなく真剣にまちづくりの活動に取り組んでいる。こういった心意気や、そこから生まれた成果を見て、また町民が学生と協働することで、町民のまちづくりに対する意欲が刺激されてい



2000人のホームページの取材風景

る。町民自身の心の変化が生まれることが、学生の関わるまちづくり活動の一番の成果ではないだろうか。

例えばこれまでに、地域の資源を活かした特産品作りなどの起業に対する助成事業に24もの住民グループが手を挙げ、活動中である。また、各集落ごとに地域資源を探し、地域を紹介するガイドブックにまとめるという事業にも取り組んでいる。こんなふうには、地域を見つめ直し、盛り上げていこうとする活動の根底に、学生など若者からの刺激がいきていると信じ、学生を受け入れているのである。

■特定非営利活動法人 日本上流文化圏研究所 <http://www.joryuken.net/>

■2000人のホームページ <http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/2000/>